



ピオトープの見学会(国央道 あきる野IC)

## 05 社会と社員のために

### 社会的責任を果たす役割

安全・安心・快適・便利な高速道路サービスの提供という使命を果たすには社員の健康が不可欠です。今年に入って全世界的に流行している新型コロナウイルスに関しては、当社は速やかに対策本部を立ち上げ、経済活動に不可欠な高速道路サービスの提供を継続しつつ、社員の感染防止のため、テレワークや時差出勤を積極的に推進しています。

このテレワークの定着や時差出勤、休暇制度の拡充などで多様な働き方をさらに取り入れ、働きやすい職場環境を整備することにより、ライフ・ワーク・バランスの充実と生産性向上を目指してまいります。

当社グループは、ステークホルダーの皆さまからの信頼に応えるため、コーポレートガバナンスを充実させ、透明、公正かつ迅速な意思決定による健全な経営のもと、事業活動を継続することにより、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に繋げ、社会の発展に貢献してまいります。

取締役兼専務執行役員  
総務・経理本部長

荒川 真



## ■「やりがい」や「満足感」を実感できる 職場環境づくり

### ◎ ライフ・ワーク・バランスの推進

NEXCO東日本グループでは、社員の一人ひとりが健康な生活を送り、安心して、やりがいを持って快適に働ける会社をつくるため、社員の健康保持・増進を支援して、ライフ・ワーク・バランスの充実を図れるよう、取り組んでいます。

年次休暇、特別休暇に加え、育児休業などの制度を充実させ、社員が家庭と職場を両立させながら安心して働ける環境を整えています。



### 【各種休暇制度】

育児休業	子どもの養育のため、子どもが3歳に達する日まで
部分休業	小学校3年生までの子どもの養育のため、1日2時間以内
産前・産後休暇	社員が出産する場合は、産前6週間・産後8週間
配偶者分娩休暇	配偶者が出産する場合は、3日以内
育児参加休暇	配偶者が出産した場合は、出産した子どもまたは小学校就学前の子どもの養育のため5日以内
看護休暇	小学校3年生までの子どもの看護のため、毎年度5日以内（2人以上の場合は10日以内）1時間単位で取得可能
介護特別休暇	要介護者の介護のため毎年度5日以内（2人以上の場合は10日以内）1時間単位で取得可能
介護休暇	要介護者の介護のため、通算して186日以内（3回を上限とした分割取得可能）
配偶者同行休業	外国で勤務等する配偶者と生活をともにするため、3年を超えない範囲内

### ◎ ワークスタイルの変革

NEXCO東日本では、多様で柔軟な働き方に資する施策の一つとしてテレワークを活用しています。  
今般の新型コロナウイルス対策を一つの契機として、新人研修では社員にタブレット端末を配布して全面的にウェブ研修化したほか、テレワークの更なる推進を図っています。

### ◎ 労働安全衛生

NEXCO東日本グループの労働安全衛生活動の根本となる基本理念を2013年4月に制定し、グループ全体でこれを共有しています。NEXCO東日本の社員などの危険および健康障害の防止ならびに快適な労働環境の形成の促進を図り、安全衛生の水準の向上に資するために「労働安全衛生推進委員会」を設置し、社員の健康障害の防止や健康の保持増進のほか、労働災害の原因分析および再発防止に努めています。

#### NEXCO東日本グループ労働安全衛生基本理念

NEXCO東日本グループは、グループの事業に携わるすべての者の安全の確保および健康増進を図ることが、事業実施の根幹をなすものであることを認識し、グループをあげて安全かつ快適な労働環境の維持・向上に努めます。

### ◎ 社員の健康保持・増進

NEXCO東日本では、心理相談員の資格を有する看護師が常駐する「健康相談室」を本社・支社などに設置し、社員の健康管理をサポートしています。また、昨今問題となっているメンタルヘルスについても早くから取り組んでおり、ストレスチェック結果を反映させた階層別の研修の実施や、集団分析結果に基づき職場環境改善に向けたアクションプランを作成し実施するなど、積極的な取り組みを行っています。

### ◎ 健康経営の推進

当社は、経済産業省および日本健康会議が実施する健康経営優良法人認定制度において、「健康経営」の取組みが優良であると認められ、「健康経営優良法人2020（大規模法人部門）」に認定されています。



### ◎ 健全な労使関係の維持

会社における良好な職場環境と人間関係を構築するためには健全な労使関係が基本にあると考え、定期的に会社側から労働組合に経営方針などを説明し、労使で意見交換を行う「労使経営懇談会」を開催するなど、相互の理解を深めています。



労使経営懇談会の様子

### ◎ 女性活躍の推進

ジョブリターン制度や社員の勤務地に関する特例措置の実施など、女性活躍の推進に資する制度を導入しています。このほか、活躍している女性社員を特集したパンフレットを作成したり、内閣府男女共同参画局による「リコチャレ応援団体」に登録したりすることで、女性社員を積極的に採用しています。

「次世代法に基づく一般事業主行動計画」  
「女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画」  
<https://www.e-nexco.co.jp/company/actplan/>

### ◎ 女性技術者現場見学会・意見交換会

当社では、建設業で働く女性の活躍を推進するため、東北道リニューアル工事、常磐道4車線化工事の現場見学会や意見交換会を通して、技術力の向上や相互のネットワークづくりなど、女性が働きやすい職場環境を目指しています。



女性技術者現場見学会の様子

### V O I C E

舗装やのり面の補修工事などの責任を担っており、お客さまの安全・安心な走行のためにとても重要な業務であり、やりがいを持って仕事をしています。  
2019年から女性技術者同士の交流のため、社外の女性技術者団体の協力を得ながら、現場見学会や意見交換会を開催しています。女性ならではの悩みやそれに対するアドバイス、仕事に対するモチベーションなど、たくさんの刺激を受けています。男女関係なく、自分らしく仕事ができるような職場環境を目指していきたいと思っています。



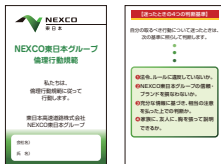
東北支社 仙台東管理事務所  
改良担当課長  
渡辺 由美子



## ■ 倫理行動規範の策定

NEXCO東日本グループの倫理行動規範は、企業の行動原則としての「企業行動基本方針」と、役員および社員の行動原則としての「私たちの行動指針」から成り立っています。

また、自分の取るべき行動について迷ったときの判断基準として、【迷ったときの4つの判断基準】を掲載するとともに、個人携帯用カードを作成し、全社員に配布しています。



- I. 企業行動基本方針  
II. 私たちの行動指針
- (1) ルールの遵守 (2) 人間尊重 (3) お客さまとの関係 「お客さまへの姿勢／個人情報の保護」  
(4) 取引先との関係 (5) 株主・投資家との関係 「株主・投資家への責任／情報の開示」  
(6) 社会との関係 「地域社会への責任／道路資産などの保全／反社会的勢力などへの対応／国際社会への責任」  
(7) 環境との関係 (8) 社員との関係

## ■ コンプライアンス体制

NEXCO東日本は、社長を最高責任者とするコンプライアンス推進体制を構築しており、NEXCO東日本グループの全役員・社員が法令・社内規程・倫理行動規範を遵守するとともに、常に高い企業倫理と社会良識を持って行動することと当社グループの経営理念・経営ビジョンに適合した行動を実践しています。

また、業務監査室がグループ全体のコンプライアンスを統括しています。

### ◎ コンプライアンス委員会

NEXCO東日本グループとして、コンプライアンスに適合した行動を実践するために、コンプライアンス推進活動に関する事項を審議および検討するため、社外の有識者を委員に含む委員会を設置しています。

### ◎ コンプライアンス推進責任者

NEXCO東日本では職場ごと、グループ会社では会社ごとにそれぞれ主体的にコンプライアンス推進活動に取り組むためにコンプライアンス推進責任者などを置き、定期的な会議を開催し、コンプライアンス推進に係る情報共有、連絡調整および意見交換などを行っています。

### ◎ コンプライアンス通報・相談窓口

公益通報者保護法に基づき、NEXCO東日本およびグループ会社ごとに、社内および社外通報・相談窓口を設置しており、これを適正に運用することで、コンプライアンスに関する課題の早期発見・解決を図り、企業としての自浄作用が有効に機能するよう努めています。

## ■ コンプライアンス推進活動

当社は、役員および社員などのコンプライアンス意識の定着および醸成を目的として、次のような推進活動を実施しています。

### ① コンプライアンスに関する情報発信

コンプライアンスに関する法令、社内規則や倫理問題を取りまとめた「コンプライアンスマニュアル」を全社員に配布するとともに、「コンプライアンス掲示板」や「コンプライアンスサポート便」を運用することにより、各種情報の配信や意識の向上に努めています。

### ② コンプライアンス研修・講習会の開催

コンプライアンス意識の浸透と向上を目的として、研修・講習会やeラーニングを継続的に実施するとともに社外講師による講習会を定期的開催し、意識向上に努めています。

### ③ コンプライアンス意識調査の実施

社員のコンプライアンスに関する意識や課題を確認するとともに、コンプライアンスに関する取組みの効果を検証し、改善につなげるべく各会社ごとに継続的に意識調査を実施しています。

### ④ コンプライアンス推進強化月間の設定

当社グループでは、10月を「コンプライアンス推進強化月間」に設定し、社長からのトップメッセージの配信などの各種取組みを実施しています。



コンプライアンス講演会

## ■ 法令遵守と公正性・透明性・競争性を確保した調達の実現

### ◎ 適正な調達を確保するための取組み

#### \* 調達にかかる営業活動の自粛要請と接触禁止の徹底

入札参加希望者に対して、個別の発注条件に関する営業活動の自粛を要請するとともに、社員にも、接触を行わないよう倫理教育を行っています。

#### \* 調達手続きにかかる情報の管理の徹底

契約制限価格や発注予定などの未公表情報・非公表情報については、情報セキュリティ対策を実施し、情報漏洩などの防止を徹底しています。

### ◎ 公正性・透明性・競争性を確保した調達制度の構築と実施

#### \* 一般競争入札と総合評価落札方式の原則化

競争契約の方法は、一般競争入札を原則とし、落札者の決定方法を総合評価落札方式とすることにより、品質と価格に優れた調達を実現しています。

## ■ 反社会的勢力などへの対応

市民社会に脅威を与える反社会的勢力および団体などには、毅然として対応します。具体的には、各警察本部や暴力追放センターなどと連携した「不当要求防止連絡協議会」を各支社ごとに設置し、警察への連絡体制の構築と協議会内の情報共有を図るとともに、次のような方針で対応しています。

- ① 「不当要求団体を恐れない」、「不当要求団体に金を出さない」、「不当要求団体を利用しない」ことを実践する。
- ② 不当要求団体による不当な要求は断固拒否する。
- ③ 関係機関との密接な連携と一致団結した協力体制を確立する。

### \* 調達手続き、調達結果にかかる情報の公表

「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」に基づき、工事などの調達情報や、主要工事の平均落札率を公表しています。

### ◎ 入札監視機能の強化のための取組み

#### \* 入札監視委員会および入札監視統一事務局の設置

「入札監視委員会」を支社ごとに設置し、入札契約手続きの経緯や審査状況などについて、外部有識者による審議を受けています。

また、「入札監視統一事務局」を設置し、入札契約手続きに関する事前・事後の審査やデータの収集分析を行い、手続きの適正化に努めるとともに、審査状況を入札監視委員会に報告しています。

## ■ 情報セキュリティの推進

NEXCO東日本は、個人情報をはじめとする重要な情報資産が常にさまざまな脅威にさらされていることを認識し、当社が保有する情報資産の安全確保のため情報セキュリティ対策を継続的に推進しています。

- ◎ 情報セキュリティ対策に関する規程を定め、運用体制を確立し、維持、改善を含めた情報セキュリティに関する活動を継続的に実施しています。
- ◎ 情報資産に対する盗聴、侵入、改ざん、漏洩などの脅威に対して、安全を確保するための物理的、人的、技術的な諸対策を講じています。
- ◎ 情報資産を利用する者に対して、教育・訓練を継続的に実施し、情報セキュリティ対策に対する意識の向上を図っています。

「情報セキュリティ基本理念」  
[https://www.e-nexco.co.jp/security\\_policy/](https://www.e-nexco.co.jp/security_policy/)



## ■ 高速道路事業の着実な進捗に向けた資金調達

### ◎ 高速道路の建設資金の調達

NEXCO東日本では、お客さまからいただく通行料金収入を、高速道路の維持管理や各種サービスの提供などとともに、高速道路機構への賃借料の支払いにあてています。(P8参照)

一方で、高速道路の建設・更新事業に必要な資金は、社債の発行や金融機関からの借り入れによって調達しています。

### ◎ 「ソーシャル・ファイナンス」によるSDGsへの取組み

当社は、国際資本市場協会(ICMA)が定めるソーシャルボンド原則に基づくソーシャル・ファイナンス・フレームワークを策定し、高速道路会社で初となる第三者評価を格付投資情報センター(R&I)から取得し、「ソーシャル・ファイナンス」として資金調達を行っています。

これにより調達した資金は、高速道路の建設・更新事業を通じて、地域活性化・災害対策・交通安全の推進・環境保全などといった観点から、社会的課題の解決に役立てています。また、各種SDGsセミナーにも参画し、ESG市場の発展にも貢献していきます。

#### ● ソーシャル・ファイナンスとは

社会的課題を解決する事業に充当することを目的とした資金調達手段です。

当社では2019年度にソーシャルボンドにより3,100億円、ソーシャルローンにより600億円を調達し、多くの投資家・金融機関の皆さまから投資・融資をご表明いただいています。

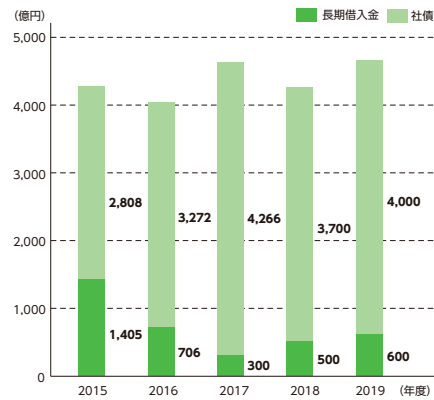
【ソーシャル・ファイナンスについて】

[https://www.e-nexco.co.jp/ir/bond\\_rate/socialfinance/](https://www.e-nexco.co.jp/ir/bond_rate/socialfinance/)

### ◎ 日本国債と同等の格付けの取得

当社は、R&I、ムーディーズ・ジャパン(Moody's)、日本格付研究所(JCR)から格付けを取得しており、投資家の皆さまの客観的な投資判断に資するよう努めています。これら格付機関からは、いずれも日本国債と同等の信用格付けが付与されています。

### < 資金調達の推移 >



SDGsセミナーにおける講演

### NEXCO東日本の信用格付け

格付投資情報センター(R&I) (発行体格付け)	AA+
ムーディーズ・ジャパン(Moody's) (発行体格付け)	A1
日本格付研究所(JCR) (長期発行体格付け)	AAA

## ■ お客さまの声に対する対応

お客さまセンターには、電話やNEXCO東日本ポータルサイトのお問い合わせフォーム(メール)を通じて、1日あたり約1,100件のお問い合わせなどが寄せられています。

2019年度は、約40万件のご意見やお問い合わせがあり、その約3割が交通に関するものです。特に台風15号・19号などにより、首都圏では長時間に及ぶ通行止めが実施されたことから、交通に関するお問い合わせは、前年と比較し約13,000件も増加しました。

NEXCO東日本グループでは、これからもお客さまを第一に、より質の高いサービスの提供に心がけ、いただいたご意見・ご要望は、経営陣を含め当社グループ全体で共有・分析し、お客さまサービスの向上に役立てていきます。

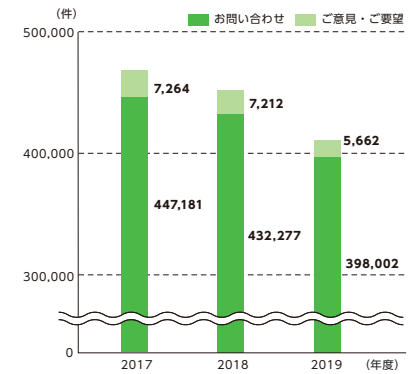
### ◎ コールセンターの外部評価機関で

#### 8年連続三つ星を獲得

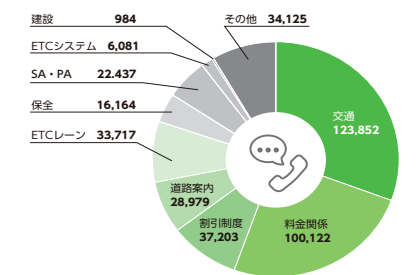
コールセンターの対応品質やつながりやすさを格付けしているHDI(Help Desk Institute)の「電話問合せ窓口格付け調査」で、2012年から8年連続で最高評価となる★☆☆(三つ星)を獲得しました。



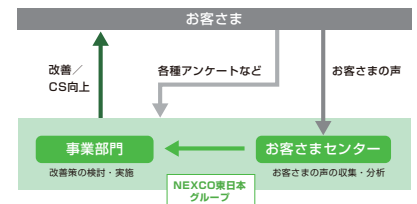
### < 受付件数推移(年度合計) >



### < お問い合わせ・ご意見・ご要望の内訳(2019年度) >



### < お客さまの声を活かすサイクル >



### < お客さまの声 >

SA・PAにおける安全対策の取組み(東北支社管内)

**東北道 国見SA(上り線)のスロープが雨に濡れると滑るので、早急に対策をしてもらいたい。**

スロープに防滑テープを施工し、売店に注意喚起の案内を掲示しました。  
下り線側にも同様の施工を行い、お客さまの安全確保に努めています。



お客さまセンターに寄せられたご意見・ご要望を参考にした改善事例を「お客さまの声を活かした取組み」としてWebで紹介しています。  
<https://www.e-nexco.co.jp/contact/improve/>

## ■ NEXCO東日本のCSR

### ◎ NEXCO東日本が取り組むCSR活動の姿

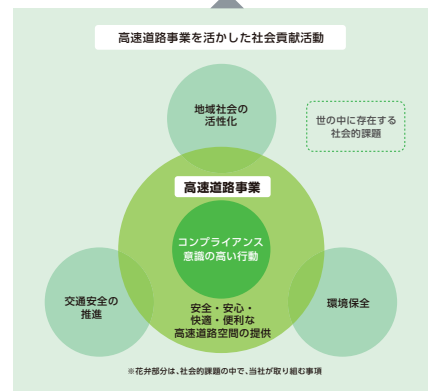
NEXCO東日本グループは、当社が取り組むCSR活動の姿と「CSR宣言」を2014年2月に策定し、経営理念および経営ビジョンの実現を目指して、「地域をつなぎ、地域とつながる」をキーワードにCSRの取り組みを進めています。

2019年3月には中期経営計画の見直しにおいて事業を通じてSDGsに貢献していくことを経営に取り込み、明確にしました。(P15～16参照)

当社グループの事業活動そのものが企業の社会的責任を果たすことにつながると考え、これからも社会の中の会社という考えのもと、社会の発展に貢献していきます。

CSRキーワード「地域をつなぎ、地域とつながる」

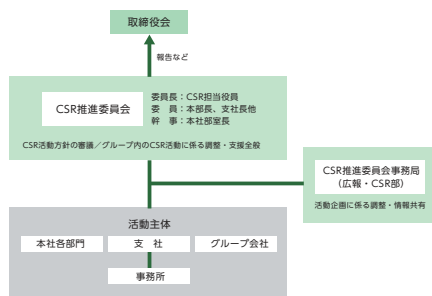
グループ経営理念・経営ビジョンの実現



## ■ CSR推進体制

CSR担当役員を委員長とするCSR推進委員会において、活動の方針や課題を審議し、活動の推進体制を築いています。

またSDGsをテーマにセミナーを実施し、CSRに対する社員の意識の向上に努めています。



CSR推進委員会



CSRセミナー(講師:サンメッセ総合研究所(Sinc)所長 川村 雅彦氏)

## ■ 高速道路事業を活かした社会的課題解決への取り組み

NEXCO東日本グループでは、高速道路事業を活かしたCSR活動(地域社会の活性化・交通安全の推進・環境保全)を進めています。

### ＜ 高福連携 ＞

農業と福祉の連携である「農福連携」から着想を得た高速道路と福祉が連携した高福(幸福)連携は、SA・PAの美化や植栽といった作業を協働し、障がいのある方の活躍の機会とすることで、高速道路を通じて地域社会の活性化に貢献することを目指す取り組みです。

地域社会の活性化と障がいのある方の活躍の機会につながり、ダイバーシティを推進する高福連携はSDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」への貢献にもつながります。

### ＜ 子どもたちの教育支援 ＞

次世代を担う子どもたちに対して、高速道路の現場や道路管制センターの見学を行うことで、高速道路の役割や交通安全に関する教育支援を行っています。

その他、エコバイクやバードハウスの製作を通じて環境保護の大切さを伝えています。

### ◎ 観光振興

SA・PAにおける観光・物産イベントの開催、地域観光イベントへの参加、海外旅行博でのインバウンド向け企画割引商品などのPR、オリジナル観光情報誌の発行や地元自治体・観光協会・観光施設などと連携したスタンプラリーの実施など、地域と連携した観光振興の取り組みを行っています。



タイ旅行博への出展



スタンプラリーブスター



ドライブガイド



交通安全の呼びかけ(北陸道 栄PA)



＜高福連携の詳細＞  
[https://www.e-nexco.co.jp/csr/for\\_society/welfare.html](https://www.e-nexco.co.jp/csr/for_society/welfare.html)



ビオトープの見学会(圏央道 あきる野IC)



北海道ハイウェイ探検隊(北海道支社)



建設現場の見学会(横浜環状南線)

## VOICE

青森管理事務所では、「花と緑のやすらぎ ハイウェイガーデン」プロジェクトや「ビオトープ保全活動」などを通じて、弘前大学を始めとした地域との連携を進めています。また、津軽SA建物内には、地域イベントの開催や青森の観光情報などを発信するための地域連携スペース(愛称:つながる)を設置しています。

「つながる」は、つがる(津軽)という言葉の中に、津軽弁で「あなた」を意味する「な」が入っています。地域をつなぎ、地域とつながる、そして高速道路をご利用される「あなた」とお迎える「あなた」もつながる、そのような空間を作っていきたいと考えています。



東北支社  
青森管理事務所 所長  
坂本 松蔵

※取材当時の役職名



## ■ 環境保全の取組み

### ◎ 希少植物の保全

地形が改変される箇所において、希少植物が確認された場合は、工事前に類似した場所への移植を行っています。

また、保護する時期が発芽前の場合は、種子を含む土壌を



希少植物を育成した事例



発芽の状況

移植の状況

### 環境方針 (2007年7月制定)

NEXCO東日本は、環境への取組みを経営の重要課題と位置付け、社会の責任ある一員として、地球環境の保全や循環型社会の形成に貢献するとともに、沿道の生活環境や自然環境の保全の取組みを進めることにより、社会から信頼される企業を目指します。

### 環境行動指針 (2007年7月制定)

NEXCO東日本は、環境方針に基づき、以下の行動を行います。

## I. 環境保全の取組み

### 1. 地球温暖化防止への貢献

- ◎ 高速道路のネットワーク整備、ETCの普及促進、本線部の渋滞対策などによる交通の円滑化やのり面の樹林形成などにより、CO<sub>2</sub>の削減に貢献します。

### 2. 循環型社会形成への貢献

- ◎ 3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進、グリーン調達を推進することにより、循環型社会形成に貢献します。

### 3. 環境負荷の低減

- ◎ 沿道の生活環境に及ぼす影響の低減に努めます。
- ◎ 自然環境に及ぼす影響の低減に努めます。
- ◎ 事業活動のすべての段階における環境負荷の低減に努めます。

## II. 技術開発

- ◎ 持続的・効果的な地球温暖化防止、循環型社会の形成、環境負荷の低減に資するため、保有技術の活用や新たな技術開発に取り組みます。

## III. 環境経営の取組み

### 1. 環境マネジメント

- ◎ 環境保全の状況を毎年度分析・評価することにより、取組みを持続的・効果的に実施します。

### 2. コミュニケーション

- ◎ 環境マネジメントの結果を「CSRレポート\*」により公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。(※現在では「NEXCO東日本レポート」(本誌)により公表)
- ◎ 地域の方々や自治体、国などと連携した社会環境活動に取り組みます。

### 3. 社員教育

- ◎ 社員教育を通じて、環境に関わる意識向上、企業風土の醸成をさらに高めます。

## ■ CO<sub>2</sub>排出量削減への取組み

### ◎ 高速道路にかかわるCO<sub>2</sub>排出量

NEXCO東日本管内において、2019年度に排出されたCO<sub>2</sub>は、約790万トンと推計されます。その内訳は、高速道路をご利用いただくお客さまの車両から排出されるものが97.5%、道路やSA・PAなどの維持管理にかかわるものが2.2%、オフィス(社屋)にかかわるものが0.1%、建設・修繕工事の建設資材にかかわるものが0.2%となっています。

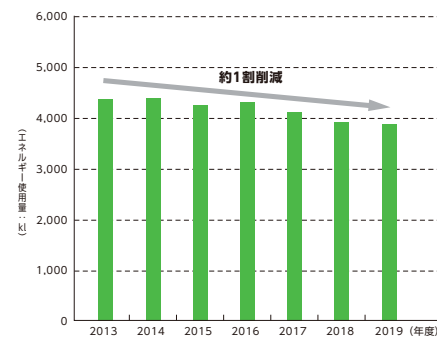
### ◎ 維持管理にかかわるCO<sub>2</sub>排出量の推移

維持管理にかかわるCO<sub>2</sub>排出量のうち、約9割はトンネル照明・道路設備など電気の使用によるものです。電気使用量の削減はCO<sub>2</sub>排出量の削減やエネルギー資源の節約にもつながることから、省エネタイプへの機器の更新や効率的な機器・機材の運用を進めています。その結果、管理延長1km当たりのCO<sub>2</sub>排出量は2019年度には43.6トン-CO<sub>2</sub>となっており、2013年度の57.1トン-CO<sub>2</sub>から約24%削減しています。

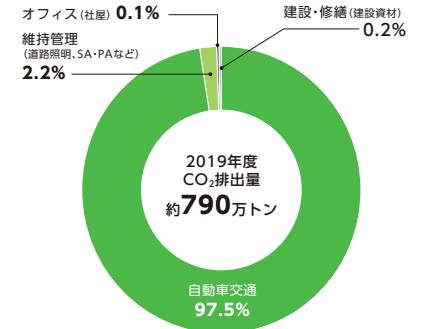
### ◎ オフィス活動にかかわるCO<sub>2</sub>排出量の推移

クールビズやウォームビズ、照明の消灯、ハイブリッド自動車の導入などにより、オフィスで使用するエネルギー使用量の削減に努めています。2019年度は約3,900kl使用しており、2013年度(約4,400kl)から約1割削減しています。

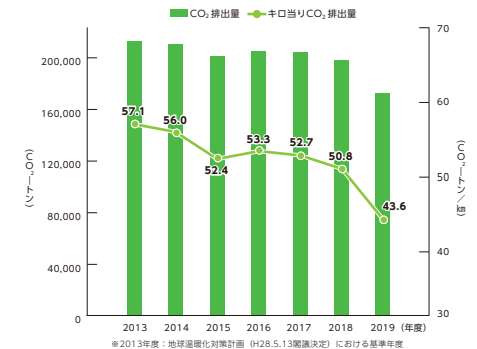
### < オフィス活動におけるエネルギー使用量の推移 >



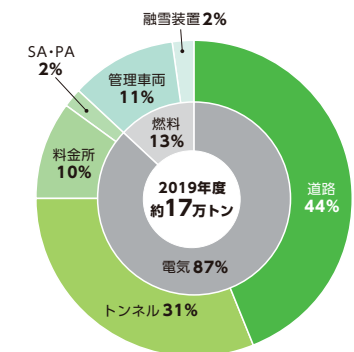
### < 高速道路にかかわるCO<sub>2</sub>排出量の内訳 >



### < 維持管理にかかわるCO<sub>2</sub>排出量の内訳 >



### < 維持管理にかかわるCO<sub>2</sub>排出量の推移 >



## ◎ 高速道路ネットワーク整備や

### 新たな高速道路料金体系による環境改善

高速道路の整備により安定した速度での走行が可能となり、一般道の利用に比べCO<sub>2</sub>のほか、NO<sub>x</sub>やSPMの排出量も削減されます。

首都圏では、圏央道、外環道などの高速道路ネットワーク整備が進み、2016年度にスタートした新たな料金体系の導入効果と相まって、長距離交通は都心通過から外側の環状道路に転換し、また、首都高速の短距離移動利用の増加による一般道の交通の円滑化など、渋滞損失時間の減少、旅行時間の短縮・定時化による交通改善効果を発揮しています。

これらの交通改善は、CO<sub>2</sub>などの排出抑制にも寄与するものです。

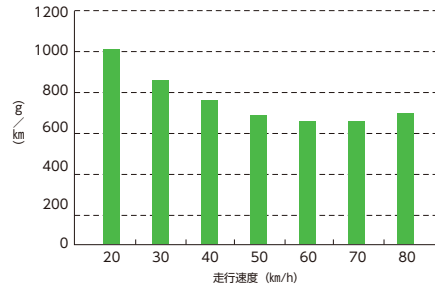
## ◎ 料金所や本線の渋滞緩和によるCO<sub>2</sub>の削減

自動車は低速時や加速時に多量の燃料を消費します。そのため、ETC利用の促進や本線の渋滞緩和はCO<sub>2</sub>排出量の削減に効果をもたらします。

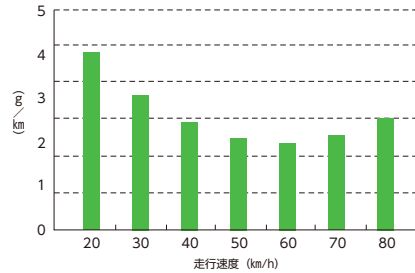
2019年度のETC利用率は91%となり、料金所付近における渋滞損失時間は、ETC導入初期の2002年度に比べ約97%減少しています。

本線では、渋滞が顕在化する箇所において付加車線の設置(増設)などの渋滞緩和対策を実施しています。また、更なる渋滞緩和対策として渋滞予測情報の提供など、渋滞回避に向けた広報活動を行っています。

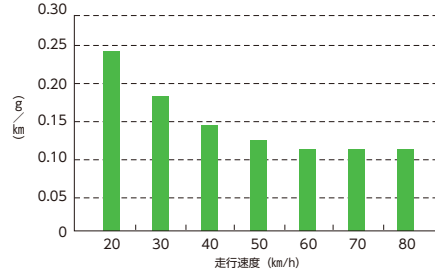
< 走行速度とCO<sub>2</sub>排出量の関係 >



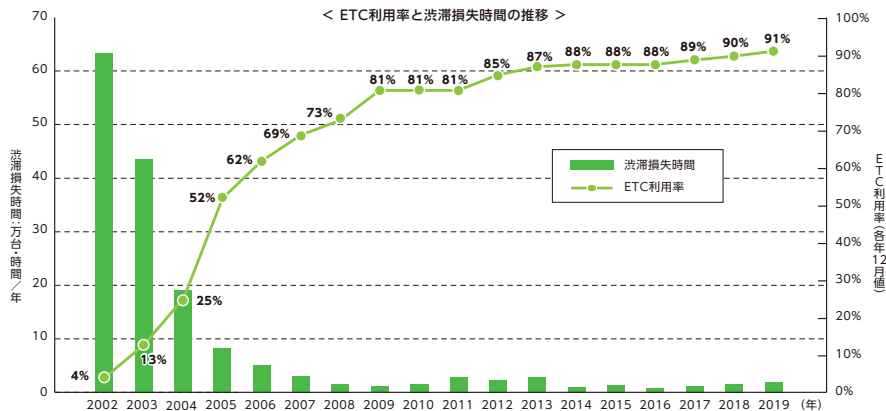
< 走行速度とNO<sub>x</sub>排出量の関係 >



< 走行速度とSPM排出量の関係 >



< ETC利用率と渋滞損失時間の推移 >



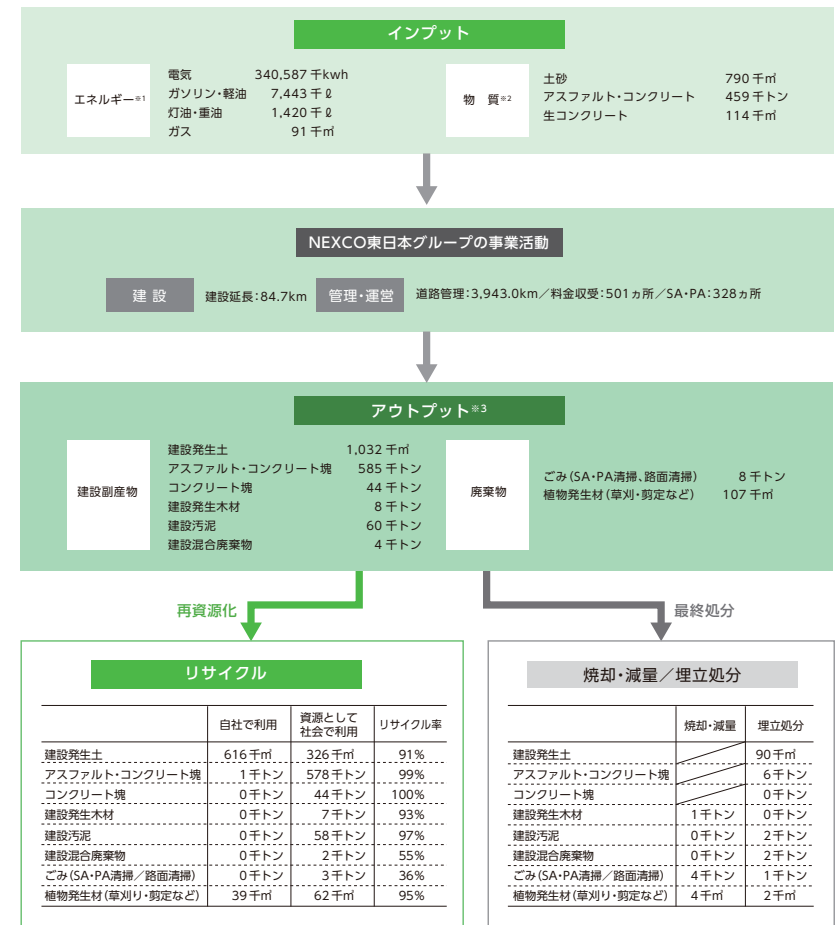
## ■ 事業に伴うエネルギー・物質の流れとリサイクルの取組み

NEXCO東日本グループの事業で使用するエネルギーは、トンネル照明・道路設備などの電気、維持管理車両や融雪装置などの燃料です。また、高速道路の工事では、主に土砂、アスファルト・コンクリート混合物、生コンクリートを使用しています。

これら事業により排出された建設副産物、廃棄物(ごみ)については、可能な限り再生資源としてリサイクルしています。



コンクリート塊の小割



※1 エネルギー投入量: 2019年度事業を集計

※2 物質投入量: 2019年度に完了した工事を対象に主要資材(土砂、アスファルト・コンクリート、生コンクリート)を集計

※3 物質の排出量: 2019年度事業を対象に建設リサイクル法に定められた建設副産物の他、SA・PAのゴミ箱から回収されるごみ、路面清掃から回収されるごみ、および草刈・樹木剪定作業により発生する植物発生材について集計



## ステークホルダーの皆さまからのメッセージ

### 北海道岩見沢市

高速道路と社会福祉が連携した「高福連携」で  
新たな可能性を探る



社会福祉法人クビド・フェア 施設長  
佐野 史典 様

北海道岩見沢市のクビド・フェアは、障がい者支援施設や特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人です。就労を通じて障がい者・高齢者の精神的充実や社会貢献を目的に、車椅子の製造開発、精密機器の製造・組立、IT事業、食料品事業など、幅広い事業を運営しています。

昨年からは、NEXCO東日本とクビド・フェアによる「高福連携」として、障がい者の方が育てた花を岩見沢SAの花壇に植栽したり、IC付近の花壇に障がい者の方が花を植える取組みを開始しました。また、岩見沢SA内の摘み花を交通安全を願う「押し花のお守り」に加工して配布する取組みも実施。最近では、NEXCO東日本のオンラインショップ「ドラぶらショッピング」で、クビド・フェアオリジナルのコーヒーセットなども販売し、これらが障がい者の皆さんの就労拡大・モチベーションアップにつながっています。

クビド・フェアは活動を通して、SDGsの掲げる「すべての人に健康と福祉を」、「働きがいも経済成長も」などの実現を目指しています。そのためには、今後、NEXCO東日本との取組みによって障がい者・高齢者の社会進出が今以上に促進されることが重要で、高福連携の更なる充実に大きく期待しています。



作業の様子

### 福島県いわき市

持続可能な社会づくりのために  
更なる連携を



福島工業高等専門学校 副校長  
芥川 一則 様

福島高専のある「いわき市」では、常磐道が開通して高速バスが走り、首都圏への移動が容易になって、今では東京通勤も可能になっています。地域社会の発展に欠くことのできない高速道路は、道路という設備だけでなくパトロールなどの管理業務との協働作業によってスムーズに機能するもので、利用者の1人としてNEXCO東日本グループの皆さんに日々感謝しております。

福島高専は、文部科学省などが進める教育を通じて持続可能な社会を構築するための実践的な取組みを行う「サステナブルスクール」に選定されており、その成果を地方に還元したいと考えています。現在、人口減少が進む地方では、都市部からの交流人口や関係人口をいかに確保するかという課題があります。その移動手段として、高速道路は欠かせません。私たちは自治体と共に、例えばICから直接アクセスできる会場を建設してイベントを行うなどの、移動までを含めた「町おこし」を検討しています。また、「福島イノベーション・コースト構想公共交通分科会」では、新しい交通システムとして、高速バスでの都市間移動とラスト1マイルのカーシェアリングを提供する実証事業も検討中で、その拠点としてIC周辺やSAが挙げられています。

高速道路には、まだまだ無限の可能性があると感じています。地方の更なる発展のために、今後もNEXCO東日本グループに期待しております。



SDGsの教材を使った支援活動

### 千葉県館山市

「南房総観光復興パートナーシップ」による  
NEXCO東日本との「つながり」が  
観光復興の支えに



千葉県館山市役所 観光みなと課 観光企画プロモーション係  
矢代 誠 様

昨年の9月と10月に相次いで房総半島を襲った台風15号・19号により、館山市は甚大な被害を受けました。その際に、一般道に先駆けていち早く復旧した高速道路のおかげで、食料品やモバイル用バッテリーといった支援物資、作業に必要な車手やブルーシートなどの備品が当地に届けられ、災害時の市民の生活を支えてくれました。また、ボランティアの方の通行を無償にして館山に集まりやすくしていただいたことで、迅速な復旧作業が可能になりました。

台風の影響はまだ残りますが、今年1月21日には、NEXCO東日本と被害を受けた複数の自治体とで「南房総観光復興パートナーシップ」を締結しました。合同イベントでのPR活動やパンフレットの無料掲出などのおかげで、関東管内のSA・PA利用者の方に、南房総の魅力をアピールできています。また、ドラ割として「南房総観光応援フリーパス」が発行されたことも手伝い、被災後の館山の客足は徐々に戻りはじめています。

館山市の今後の発展を考えるなかで、NEXCO東日本との関係はさらに重要になってくると感じています。一つの市で行う点でのアピールではなく、一都六県の高速道路を管理するNEXCO東日本とだからこそできる、面でのPR活動にこれからも期待しています。



さかなクンが名誉駅長を務める「水の博物館」

### 新潟県長岡市

上信越道が全線4車線化され  
さらに鮮度の良い状態で  
お客様に商品の提供を



アキオシリアルテイリング株式会社 専務取締役・執行役員  
山岸 豊俊 様

新潟県長岡市に本社を構えるアキオシリアルテイリングは、「原信」「ナルス」「フレッシュ」などのスーパーマーケットを運営している企業です。現在は、新潟県、群馬県を中心に6県で129店舗を展開しており、本部主導によるシステム化された組織運営で地域住民の豊かな生活の実現を目指しています。

スーパーマーケットにとって商品の鮮度は美味しさに直結するため、物流センターから店舗へスムーズに商品を運ぶことが重要です。そのため、高速道路ネットワークを前提に経営しています。

2019年に上信越自動車道の全区間が4車線となったことで、渋滞の緩和や事故などが発生した際も通行止めに含みなくなりました。それにより安定した物流が確保され、センターから離れた店舗と近い店舗に商品が届く時間差も小さくなるなど、決まった時間に商品を届ける精度が目に見えて高まっています。

アキオシリアルテイリングでは、地域貢献の視点からレジ袋の削減やエネルギー使用の抑制、物流の効率化など、SDGsの「エネルギーをみんなに」そしてクリーンに「住み続けられるまちづくりを」などの取組みにも注力してきました。インフラとしてのスーパーマーケットの存在や、SDGsを通して地域住民の皆様豊かな生活を実現するため、それらを支える高速道路の更なる充実に今後も期待しています。



中之島物流センター